

科目名 (英語表記)	専攻科特別研究Ⅱ (Advanced Graduation Research Ⅱ)						ポートフォリオ	
学年・学科	2年・建築学専攻		単位・期間	必修8単位・通年週12時間(合計360時間)			<学生が記入する上での注意事項>	
担当教員 (※は今年度受け持ち学生がいることを示す)	加藤巨邦* 小原聡司 中村裕文 山本 剛 大岡 優* 杉本 弘文* 浅野浩平*	連絡先	建築学科棟2階第6研究室 建築学科棟2階第7研究室 建築学科棟2階第2研究室 建築学科棟2階第5研究室 建築学科棟2階第1研究室 建築学科棟2階第4研究室 建築学科棟3階第10研究室	オフィサー	月曜日8限目		【授業計画の説明】 枠内に○か×かを記入すること。 【理解の度合】(記入例)ファラデーの法則、交流の発生についてはほぼ理解できたが、渦電流についてはあまり理解できなかった。 【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。	
【授業目的】 指導教員のもとで、研究対象の実験的、理論的解析法および評価方法を修得させ、1年間の研究成果を特別研究中間発表梗概にまとめ、特別研究中間発表会にて発表する。基礎的知識を実践的研究に発展させる過程の中で、独創性、積極性さらには協調性を体得させ、将来必要となる幅広い知識と柔軟な応用力を修得させる。							【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。  ルーブリック評価の【自己評価】では、到達したレベルに○をすること。  <教員が記入する上での注意事項>	
【履修上の注意】 専攻1年の専攻科特別研究Ⅰとは別に単位が認定される(1,2年を併せた単位認定ではない)。								
【事前に行う準備学習や自己学習】 各研究室の指導教員に確認すること。								
【達成目標】 1)具体的な課題に関して自主的な調査・研究ができること。 2)研究内容を分かり易く、具体的且つ簡潔にまとめることができること。 3)同じく限られた時間内で適切に口頭発表することができること。 4)質問の内容を理解し、的確に答えることができること。								
<b>学 習 到 達 目 標</b>								
ルーブリック評価	理想的な到達レベルの目安 ( A )	標準的な到達レベルの目安 ( B )	未到達レベルの目安 ( C )				ルーブリック評価とは設定された到達目標の合否および到達レベル(到達度の程度)を示す基準です。	
評価到達目標項目1	具体的な課題に関して教員から細かな指導が無くても自主的に調査・研究を進められること。	具体的な課題に関して教員との打合せと指導の下で自主的な調査・研究が進められること。	教員からの強い指導や助言に頼れば具体的な課題に関して調査・研究が進められること。				【自己評価】  A ・ B ・ C	
評価到達目標項目2	研究内容を一般の人にも分かり易く、具体的且つ簡潔にまとめることができること。	研究内容をその専門の人に分かり易く、具体的にまとめることができること。	専門家が疑問を質問すれば研究内容をまとめることができること。				【自己評価】  A ・ B ・ C	
評価到達目標項目3	限られた時間内で一般の人にも分かり易く、具体的且つ簡潔に説得力ある口頭発表ができること。	限られた時間内で専門分野人に分かるように具体的且つ簡潔に口頭発表できること。	限られた時間内で専門分野人からの質問で補足すれば分かるように口頭発表できること。				【自己評価】  A ・ B ・ C	
評価到達目標項目4	一般・専門を問わず、質問者の発言の内容をよく理解し、的確・簡潔かつ説得力ある回答ができること。	専門分野の質問者の発言内容を理解し、的確かつ説得力ある回答ができること。	指導教員の助言があれば専門分野の質問者の発言内容を理解し、的確な回答ができること。				【自己評価】  A ・ B ・ C	
<b>到 達 度 評 価 ( % )</b>								
評価方法	定期試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	その他	合計	
指標と評価割合			25	25	50		100	
総合評価割合								
知識の基本的な理解			5	5	20		30	
思考・推論・創造への適応力			15	10	25		50	
汎用的技能								
態度・志向性(人間力)				5			5	
総合的な学習経験と創造的思考力			5	5	5		15	
【教科書】 田中俊六・武田仁他2名著, 最新建築環境工学改訂4版(井上書院)							成績の評価方法について ・定期試験(中間試験(2回)・期末試験・学年末試験)を2/3, 演習課題の合計点を1/3で重み付けして100点満点で評価する。  評価基準について ・演習課題は作品の正確さ・美しさ・工夫を考慮して1回10点満点で次のように記号を点数換算している。A+=10点,A=9点,A-=8点,B+=7点,B=6点,B-=5点,C+=4点以下。再提出は8点満点。提出遅れは適宜減点する。 ・学年成績60点以上を合格とする。	
【参考資料】 木村健一編著, 建築環境学1,2(丸善) 日本建築学会, 建築環境工学用教材 環境編(丸善)								
【学習・教育目標・サブ目標との対応】(低学年)				—				【JABEE基準との対応】
【学習・教育到達目標との対応】(高学年・専攻科)				(B)				(c)(d)

【授業内容】			【授業計画の説明】(実施状況の記入)
授 業 要 目	内 容	時 間	
1. 授業計画の説明	授業計画・達成目標・成績の評価方法等の説明。	1	
2. 各研究室の主な研究課題(順不同)	各指導教員のもとに研究活動を行い, その成果を特別研究論文にまとめるとともに特別研究発表会において発表する。  ○授業の進め方 2年 1. 年間研究計画の策定 2. 研究の実行 3. 結果の検討・考察 4. 特別研究論文の作成 5. 特別研究論文発表会での発表 研究成果を発表し, 研究内容及びコミュニケーション能力の達成度について評価を受ける。	359	【理解の度合】(◎教員は授業の実施状況を記入)
<b>杉本研究室</b> 集住による生活・居住環境づくりに関する研  <b>中村(裕)研究室</b> 1. 建築デザイン分野でのコンピュータ利用に関する研究 2. コンピュータによる遺跡の復元支援の研究  <b>大岡研究室</b> 1. 木材の材料特性に関する研究 2. 木造建築物の耐震性能に関する研究  <b>山本研究室</b> 開口部と吹き抜けによる木造住宅の耐震性能低下に関する研究  <b>加藤研究室</b> 1. 外部風を受ける免震建物の免震層内の調査研究 2. 新しい接合金物を用いた木造トラスに関する基礎的研究  <b>小原研究室</b> 住宅用の簡易形状クールチューブの熱性能  南九州の戸建住宅の室内温熱環境の実測とエネルギー消費量の調査  <b>浅野研究室</b> 高性能繊維補強セメント複合材料における繊維配向性を考慮した力学性能評価および電気的特性に関する研究			
	合計時間	360	【総合達成度】 総合評価の点数( )
【備考】			【評価の実施状況】(◎教員は総合評価を出した後に記入する。)